



金箔地蔵

katasan1019

ある日、あるところの村のお話。ある晩、いままで村人たちが聞いたことのないようなそれはそれは大きな山崩れがありました。次の朝、村人たちは集まり

「おい！　すごい音だったなあ……」

「ああ、驚いたよ。体の震えがまだ止まらないや」

「でも、村まで来なくてよかったなあ」と、口々に言いました。

けれど、その日の晩から不思議なことが起きました。

ゝとんとん、と、村人の家を誰かが訪れ戸を叩く音がしました。

「はい？　こんな夜更けに誰だい？」と、戸を開けてみました。そこには誰もいませんでした。村人は気味悪くなり、ぴしゃりと戸を閉めしっかきつつかえ棒で入ってこられない世にして外の様子に聞き耳を立てました。すると、その音は次の家に行きました。

ゝとんとん、その音は村の家を次々と廻って行きました。

朝が近づくとつれ、その音はしなくなりました。

次の朝、村人達は集まって、「昨日の晩、気味悪かったなあ……」

「ほんとほんと」

「うちなんて、戸、開けなかったぜ」

「うちもだ」と、言いました。

けれど、その日の晩、また、その音がしました。

ゝとんとん、「あ！　又来た！　昨日のだ！」そうして、また、その音は村の家、すべてを次々と廻って行きました。

そしてまた朝が近づいてくると、その音はしなくなりました。それが何日か繰返されると村人達は「毎日毎日気味の悪い音に我慢しているだけじゃ駄目だ！」

「そうだ！　なんとかしよう！」と、話し合いました。

そして一件の家に皆で集まり、その音がした時に飛び出してその『正体』を突き止めよう。ということになりました。

いよいよ、その日の晩がやってきました。

ゝとんとん、とんとんとん。あの音が始まりました。

「来た！　いいか！　開けるぞ！　せーの」と、勇気を出して村人たちが言い、ざざつ　と、勢いよく戸を開けました。

すると、そこには誰もいません、足跡の一つもなにもありませんでした。

「あれえ？　誰もいないぞ……」

「きつねの仕業かな？」村人たちは腕を組み首をかしげました。

「おい！　あれ見ろ！」村人が指差したほうを皆で見ると、ぼうーっと金色に光る塊が山に向かってゆっくり進んでいました。

「何だあれは？」村人達は皆、呆然と眺めていました。その晩はそれっきり音もしなくなったので村人たちはそこで休みました。

そして次の朝早く、村人の何人かが昨晚見た『金色に光る塊』が進んで行った方向へと行ってみるということになりました。

そこは何日か前、山崩れのあったところで、大きな穴がぼっくりと開いていました。

村人達は恐る恐る穴の中へ入って行きました。

すると、奥の方で金色に輝く物に気づきました。

「何だ？　行ってみようぜ」

「何か埋まってるぞ！」

「頭だ！ 顔だ！ 顔が見える」

「おい！ あれってお地蔵さまじゃないか？」

金色に輝いていたのは、土にまみれてはいましたが金箔に覆われたお地蔵さまでした。その顔はまるで「遅い！ いつまでもこんなところに放って置いて……、と怒っているように見えました。

「誰がこんな所に置いたんだ？」

「俺達がここで暮らす何十年も前の人が造ったんだろうな。村を守ってもらうために」

「ってことはずっとずっと前の山崩れで埋まったってことだろうな……」

「あんな、険しい顔で……おれたちが来るのを待ってたのかもしれないな」

「すぐ、きれいにして差し上げよう」

そして、村人達は金箔が剥がれおちないようにそっと、拭こうと持ちあげました。すると、ひゅうー。と、どこからか風が吹き金箔は次々と剥がれ舞ってしまいました。

「あーあーあー、もったいない剥がれて飛んでいくう」と村人は叫びました。剥がれた金箔は村の方へと舞い、村人たちの家々へと吸い込まれて行きました。

金箔が入って言った家は金色に輝き、今までぼろぼろだった屋根や壁は新品のようになり、床の木も新しくなりました。

家にいた病人の病気はよくなり、食べるものがなかった家には食べるものがたくさんあるようになりました。

「ああ、金箔がどんどん剥がれていく……」田を通過して舞う金箔はその年干ばつで水がなくなっていた田を潤し、枯れて倒れていた稲穂は立ち上がり重そうに金色の頭を垂れました。

「わああ。なんてことだ。村が生き返った！」「御地蔵様のおかげだ」

「『自分を見つけてくれてありがとう』って仏様からのご褒美なのか？」

「ありがたく、使わせてもらおう」と、村人達は手を合わせました。

「おい！ 見てみろよ」

なんと、怒った顔からはがれた金箔の下からは木目の美しい柔らかな微笑を浮かべた仏様の顔が出て来ました。

「顔の下に、顔がある」

「怒った顔の下に微笑んだ顔が……」そして、村人達はそのほら穴を『^{ほこら}祠』としてお祀りし、仏様も村人達をずっと見守って行きました。